

登山中の火山災害のリスク

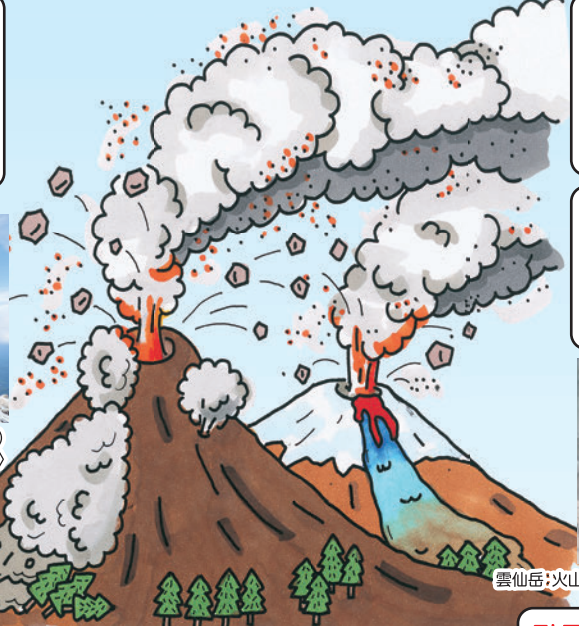
登山者に人気のある山が活火山であることがあります。火山が噴火した時には、下のような現象が突発的に起きる可能性があります。

噴火時に発生する火山現象

大きな噴石は、風の影響を受けにくく、短時間で落下してきます。火口から概ね4km以内に飛来し、登山者等が死傷したり、建物が破壊されるなどの被害が発生します。



▲御嶽山:噴石で被災した建物(2015年6月10日)
(御嶽山合同観測班撮影)



小さな噴石は、火口から10km以上遠方まで風に流されて降下する場合があります。特に火口付近では、あたりどころが悪ければ、人命にもかかわります。

火山灰自体が人命に及ぼす危険性はあまり高くありませんが、目を傷めたり、視界不良や車両の通行不能などを引き起こす恐れがあります。



▲雲仙岳:火山灰が舞い上がっている様子(島原市提供)

火砕流は高温の火山灰や火山岩塊などの火砕物と火山ガスが一体となって高速で流下する現象です。流下速度は時速数十kmから数百km、温度は数百℃にも達し、通過域を焼失、埋没させます。



▲雲仙岳の火砕流(1994年6月24日)

火口や噴気孔から放出される**火山ガス**には、硫化水素や二酸化硫黄などが含まれており、これらを吸い込むと、死にいたることもあります。空気より重いので、窪地や谷などに溜まっていることがあります。



▲三宅島:火山ガスの影響で枯れた木々(2003年5月22日)

融雪型火山泥流は、積雪期に火砕流等の熱によって斜面の雪が融かされ、周辺の土砂や岩石を巻き込みながら高速で流下する現象です。流下速度は時速60kmを超えることもあり、広範囲に大規模な災害を引き起こします。



▲十勝岳の融雪型火山泥流(1926年5月24日)
(高良野町提供)

登山者が被害を受けた事例

御嶽山の噴火 (2014年9月27日)

2014年9月27日の午前11時52分頃、長野県と岐阜県の境にある御嶽山が突然噴火しました。この噴火で、死者・行方不明者63名という被害が発生しました。



▲御嶽山の噴火(2014年9月29日撮影)

新潟焼山の噴火 (1974年7月28日)

1974年7月28日の午前2時50分頃、新潟県にある新潟焼山で噴火が発生しました。噴石により山頂付近にキャンプ中の登山者3名が死亡する被害が発生しました。



▲新潟焼山の噴火(1974年7月28日撮影)

安達太良山の火山ガス被害 (1997年9月15日)

福島県にある安達太良山の沼ノ平火口内において、溜まっていた硫化水素による中毒により、登山者4名が死亡する被害が発生しました。



▲安達太良山沼ノ平火口の様子(2004年10月23日撮影)

登山中の心得

～火山に登山をする際には、以下のようなことを心がけ、リスクを下げましょう～

- 何の前ぶれもなく噴火する可能性もあります。常に火口付近の様子に気を付けましょう!
- 噴気などの異常現象を発見した時は、安全な場所まで避難または下山するとともに、地元市町村や警察、気象台などに通報しましょう。
- 火山ガスは空気より重く、窪地や谷などに溜まっていることがあります。絶対に立ち入らないでください。



- 登山中は、携帯電話の電源はONにし、緊急速報メールや防災行政無線から流れる情報に注意しましょう。通信機器の電波が入りにくい場所もありますので、電波が届いているかどうか確認することも大切です。
- 噴火により、火口近傍には無数の大小の噴石が吹き飛ばされ、直接、生命や人体に被害を与えます。噴火に遭遇したら、直ちに火口から離れるとともに、近くの山小屋やシェルター、岩陰などの身を隠せる場所に避難しましょう。また、ヘルメット・ゴーグルを着用し、マスクや湿らせたタオルなどで口を覆いましょう。



《登山前に通信可能エリアをチェック》

一部の携帯電話会社では、登山道で通信可能なエリアマップが作成されていたり、衛星とスマートフォン直接通信サービスがご利用になることがあります。お出かけの前にホームページ等を確認しておくといでしょう。



NTTDコモ作成

(https://www.docomo.ne.jp/area/service_area/mountains/index.html)



準備品・装備品のチェック



準備品・装備品	火山に登る時の活用方法	チェック欄
火山防災マップ・火山ハザードマップ	火山現象の影響範囲や避難場所などを把握するのに活用	<input type="checkbox"/>
ヘルメット	噴石や火山灰から頭を守るのに役立つ	<input type="checkbox"/>
ゴーグル	火山灰が目に入るのを防ぐ	<input type="checkbox"/>
タオル	口を押えて火山灰の吸引を防いだり、骨が折れたところを縛ったりと活躍	<input type="checkbox"/>
雨具(レインウェア)	雨や降ってくる火山灰を防ぐのに役立つ	<input type="checkbox"/>
ヘッドライト	火山灰で視界不良となった時に役立つ	<input type="checkbox"/>
携帯電話等の通信機器・予備バッテリー	情報の入手や、通報・救助要請に使用	<input type="checkbox"/>
非常食・飲料水	救助を待つ間の食料・飲料となる	<input type="checkbox"/>
登山地図・コンパス	登山道や方向を見失っても下山する手助けとなる	<input type="checkbox"/>

※ここに上げた準備品・装備品は火山に登る時に必要なもののみをリストに載せています。

お問い合わせ先

内閣府(防災担当)調査・企画担当
気象庁地震火山部火山監視課

〒107-0052 東京都港区赤坂2-4-6
〒105-8431 東京都港区虎ノ門3-6-9

TEL.03-5253-2111(代)(内線51671)
TEL.03-6758-3900(代)(内線5207)

令和8年3月作成

火山への登山のそなえ

火山は、私たちに多くの恵みを与えてくれています。

温泉、景観、湧水、豊かな土壌……

しかし、ひとたび噴火すると大きな災害をもたらします。

登山にそなえて、火山についてよく知ることが大切です。



おおむね過去1万年以内に噴火した火山、または現在活発な活動のある火山を活火山といいます。国内には111の活火山(△)があり、このうち34火山が日本百名山(▲)に選ばれています。